平成23年度学校関係者評価

1 自己評価について

	実施時期	回収率 (%) (回収数/対象数)
教職員による評価	平成23年7月、12月、平成24年3月	
外部アンケート (保護者)	平成24年1月	84.1% (568/675)
(生徒)	平成24年1月	97.0% (655/675)

2 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

- ①教員各人の思いや考え方によるものなので、評価結果を尊重したい。
- ②生徒の健康面、特にインフルエンザ対策の充実を図ってもらいたい。
- ③暴力やいじめが昨年の3倍ある。これは「学校があれてきている」と捉えるよりむしろ、教員の目配り・気配りが生徒一人ひとりに向けられた努力の結果であると思う。
- ④特別指導の質が変わってきているように感じた。特に授業妨害がなくなってきていることは良いことだと思う。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

- ①教員各人が評価結果を踏まえて設定した改善策であり、その内容は適切であると思う。
- ②保健だよりを定期的に発行しているようなので、その中で注意やインフルエンザ等の予防接種の案内をしてみたらどうだろうか。また、教室の換気、手洗いの励行など生徒ができることについては、積極的な指導をお願いしたい
- ③暴力やいじめは、生徒のこころの問題である。教員が一丸となって、今以上に生徒一人ひとりに目を配り、「こころの指導」を十分に行ってもらいたい。
- ④学習に対する意識の向上のための指導は継続してもらいたい。また、特別指導の在り方について、家庭謹慎は効果がないと思うので、授業に出してその後の指導を強化したらどうだろうか。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- 学校で十分に協議されて設定されたものであり、重点目標や評価項目は適切であると思う。
- 「子どもを長崎鶴洋高校に入学させて良かったと思いますか。」に対して、80%を超える保護者が「良かった」と回答しているのは、とても良い傾向だと思う。それに対して生徒の割合が少ないのが残念ではある。
- 保護者の学校への関心の低さを感じるので、その対策を考慮して重点目標の設定を行ってもらいたい。

(4) 学校運営の改善に向けた実際の取組について

- 学校で十分に検討され取り組んでいるものであり、適切であると思う。
- 学校は、率直に回答してくれる保護者の意見を大切にってもらいたい。冷暖房対策にしても、毎年同じ意見を耳にする。そういう意見が出ないような納得できる説明を行ってもらいたい。
- 挨拶などの礼儀や行動については、教職員・保護者が生徒の見本となる言動をとらなければならない。